

事務事業マネジメントシート(令和 5年度実績と令和 6年度計画)

令和 6 年 6 月 2 4 日 更新

事務事業名		こころの相談事業				☒ マニフェスト関連 ☒ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政 策	2	福祉の健康				所属部	健康福祉部	課長名	末永 大樹
	施 策	5	健康づくりの推進				所属課	健康ほけん課	担当者名	合田 友美
	施策の柱	20	病気の早期発見				所属班	健康づくり班	(内線)	1184
予算科目		会計一般	款 4	項 1	目 1	事業連番 10365	根拠法令	精神保健福祉法		
終了、開始年度		☐ 5年度で終了 ☐ 5年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)			

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	毎月1回、精神科医師による相談事業を実施している。広報誌・すこやかカレンダー・ホームページ・チラシ等により周知をする。関係各課にも周知を行う。電話や来所（予約制）で、本人や家族による相談を受ける。平成14年度までは県が実施主体であった精神保健に関する事業の一部が市町村に移管されたことに伴い、相談事業を強化する目的で専門医をスタッフに含めた体制とした。相談者数は年間10人程度であるが、病院まで行けない人や対応に困っている家族への支援に寄与している事業である。令和6年度より、こころの健康事業に名称変更。
【業務の流れ】	相談事業は、電話及び窓口相談により解決しない場合、設けた相談日で予約を受け相談を実施する。日程・時間は予約制である。
【主な予算費目】	委託料
【意見や要望】	話を聞いてもらえて整理ができ良かった、前向きになった、アドバイスをもらい方向性が見えた等の意見あり。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 5年度実績(5年度に行った主な活動)(DO) 予約制(原則月1回)で精神科医が対応した。 【実績】実施回数8回、相談者9人		6年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) こころの相談事業：年間7回の実施、1回の相談日で2枠相談可能
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
⇒ ア: 相談回数	回	
⇒ イ:		
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
こころの悩みを抱えている人。	人	⇒ ア: 相談者数
		⇒ イ:
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
方向性が見え、こころが軽くなる。適切な医療につながる。今の状況を改善するきっかけになる。	人	⇒ ア: 受診をすすめた人の数
	%	⇒ イ: 相談を受けて方向性が見えた人の割合
*③成果指標設定の理由と 6年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ~ 年度
相談に来所した家族や本人が相談することで、こころが元気になることを目的とするため、成果の指標を相談を受けて方向性が見えた人の割合とした。また、場合により、医療機関を受診することが必要な人もいるため、成果の指標として受診をすすめた人の数とした。		0

(2) 各指標・総事業費の推移										
		単位	3年度 実績(決算)	4年度 実績(決算)	5年度 目標(当初予算)	5年度 実績(決算)	6年度 目標(当初予算)	7年度 予定	8年度 見込	9年度 見込
① 活動指標	ア	回	6	6	7	8	7	7	7	7
	イ									
② 対象指標	ア	人	6	9	11	9	11	11	11	11
	イ									
③ 成果指標	ア	人	6	8	4	8	4	4	4	4
	イ	%	100	100	100	100	100	100	100	100
投資 入費 量	事業 費 内 訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円	42	44	29	61	102	102	102
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	92	76	125	115	52	52	52
	(A) 事業費計	千円	134	120	154	176	154	154	154	154
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
	人件 費	正規職員従事人数	人	2	5	3	3	3	3	3
		延べ業務時間	時間	205	480	120	470	120	120	120
		(B) 人件費計	千円	801	1,826	478	1,711	478	478	478
	トータルコスト(A)+(B)		千円	935	1,946	632	1,887	632	632	632

事務事業名	こころの相談事業	所属部	健康福祉部	所属課	健康ほけん課
-------	----------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部（CHECK）

*原則は5年度の事後評価、ただし複数年度事業は5年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 5年度目標達成度評価	☒ 達成した 予約制で月1回実施のため、電話相談や他課からの紹介等の相談希望があった時、タイムリーにこころの相談につなげることができなかったことがあった。しかし、下半期は予約が定期的に入るようになり、定期的な開催を行うことができた。相談者に対して今後の方向性や対応について等改善に向けてのきっかけ作りとなっており、重要な事業だと思われる。
	② 6年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 年間の日程が決まっており、随時案内はできない状況もある。そのため、相談内容によっては、医療機関や関係機関への紹介を必要に応じて行っていく。続けて、周知も行っていく。
有効性評価	③ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある⇒【理由】 こころの相談について広報誌・すこやかカレンダー、ちらし等での周知のみならず、関係各課への呼びかけや健診時など多くの機会を捉え周知していく。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある⇒（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない⇒【理由】 他に類似した事業はない。
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある⇒【理由】 ☒ 削減余地がない⇒【理由】 委託料については、前年度同様。これ以上の削減余地はない。
	⑥ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある⇒【理由】 ☒ 削減余地がない⇒【理由】 事務に係る時間数も最小限で行っておりこれ以上の削減余地はない。保健師という専門職が対応することが大事な事業である。
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある⇒【理由】 ☒ 公平・公正である⇒【理由】 相談を受けたい人を対象にしているので、公平・公正である。
役割分担評価	⑧ 行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である⇒【理由】 窓口として職員で対応し、より専門職への相談につなげている。

3 評価結果の総括（CHECK）

相談者数が微増の状況。相談日が決まっていることもあり、タイムリーに相談につなげることができない場合もあった。しかし、身近な相談のできる場所として今後も周知を行い、必要な人が相談できる場としていく。継続してこころの相談の周知徹底を行っていく。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"> </td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○																				
	低下																						
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																							